免疫学2

静岡社会健康医学大学院大学 木下和生

講義の構成

- 第1回 (11/6) 自然免疫 innate immunity
- 第2回 (11/13) 適応免疫 adaptive immunity
- 第3回 (11/20) 免疫学と社会との関わり

免疫の特性

- 自己・非自己の識別 self vs. non-self
- 特異性 specificity
- 多様性 diversity
- 記憶 memory

自然免疫と適応免疫

- 自然免疫 innate immunity
 - 生まれもって備わっている免疫。初回の感染でも迅速に反応する。
- 適応免疫 adaptive immunity
 - 獲得免疫 acquired immunity と同義。
 - 2回目以降の感染時に有効な免疫。病原体 特異的で長期にわたり記憶を維持できる。

	自然免疫	適応免疫
自己非自己識別	有り	有り
特異性	決まったパターン	何にでも
多様性	少ない	無限
記憶	なし	有り
血中タンパク	補体・他	抗体
細胞	好中球・マクロファ ージ・NK細胞	リンパ球

構成細胞

- 上皮細胞 epithelium (皮膚・粘膜)
- マクロファージ macrophage
- 好中球 neutrophil
- 樹状細胞 dendritic cell
- NK細胞 natural killer cell
- 自然リンパ球 innate lymphoid cell
- 肥満細胞 mast cell
- リンパ球 lymphocyte

これだけ覚える:タイムスケールに注目

微生物 Microbe 1st line 2nd line Adaptive immunity Innate immunity 自然免疫 適応免疫 上皮バリア Bリンパ球 B lymphocytes Epithelial 抗体 barriers **Antibodies** Dendritic Phagocytes エフェクターT細胞 cells 樹状細胞 Tリンパ球 食細胞 Effector T lymphocytes T cells Mast cell 肥満細胞 NK細胞 NK cells and other Complement **ILCs** Hours innate lymphoid cells (自然リンパ球)Days 補体 Time after infection

自然免疫

貪食

(好中球、マクロファージ) **補体**

NK細胞

自然リンパ球

適応免疫



Tリンパ球 Bリンパ球 ゲノム編集

適応免疫

- たくさんの種類の病原体に対処
- 侵入ルートは様々
- 侵入部位とは別の場所でも対処
- 一度遭遇した相手を記憶
- 抗体を介してその記憶を母から子へ伝える

適応免疫

- 細胞
 - リンパ球
 - 抗原提示細胞
- ・リンパ組織
 - 骨髄、胸腺、リンパ節、脾臓、皮膚、粘膜

リンパ組織

- 骨髄 造血(免疫細胞もここから)、形質細胞による抗体産生。
- 胸腺 Tリンパ球の教育器官
- リンパ節とリンパ管 樹状細胞に捕捉された抗原の収集。Tリンパ球、つぎに、Bリンパ球の活性化。
- 脾臓 血液中の抗原に対する免疫。損傷赤血球の除去。

リンパ組織

- 抗原の濃縮
- 抗原の提示
- リンパ球の抗原認識と活性化
- 免疫記憶

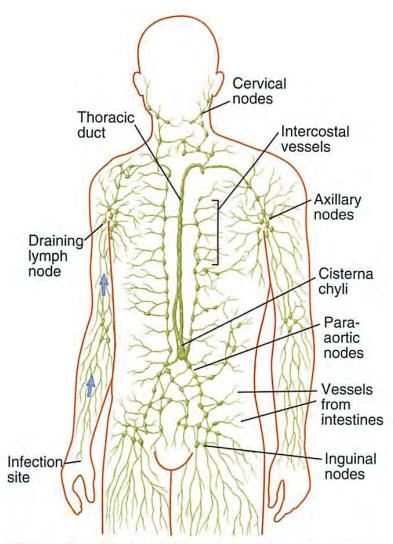


FIGURE 3–8 The lymphatic system. The major lymphatic vessels and collections of lymph nodes are illustrated. Antigens are captured from a site of infection, and the draining lymph node to which these antigens are transported and where the immune response is initiated.

Cellular and Molecular Immunology 6th ed.

glymphatic system

- 脳にリンパ管は存在しない。硬膜 dura には存在する。
- 脳細胞間に隙間があり、神経活動が少ない時に拡大する。
- CSF が流れ、免疫細胞・老廃物の通路 になっている。

Xie et al, "Sleep Drives Metabolite Clearance from the Adult Brain" Science 342: 373 (2013)

https://www.science.org/doi/10.1126/science.1241224

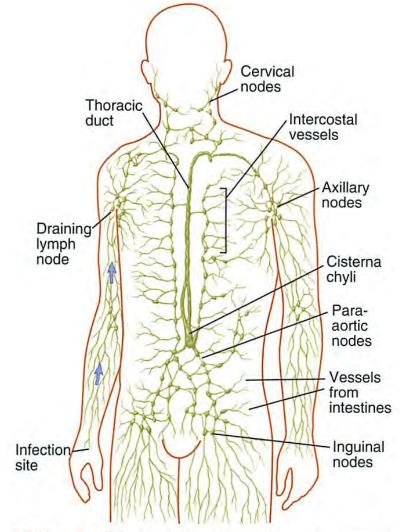
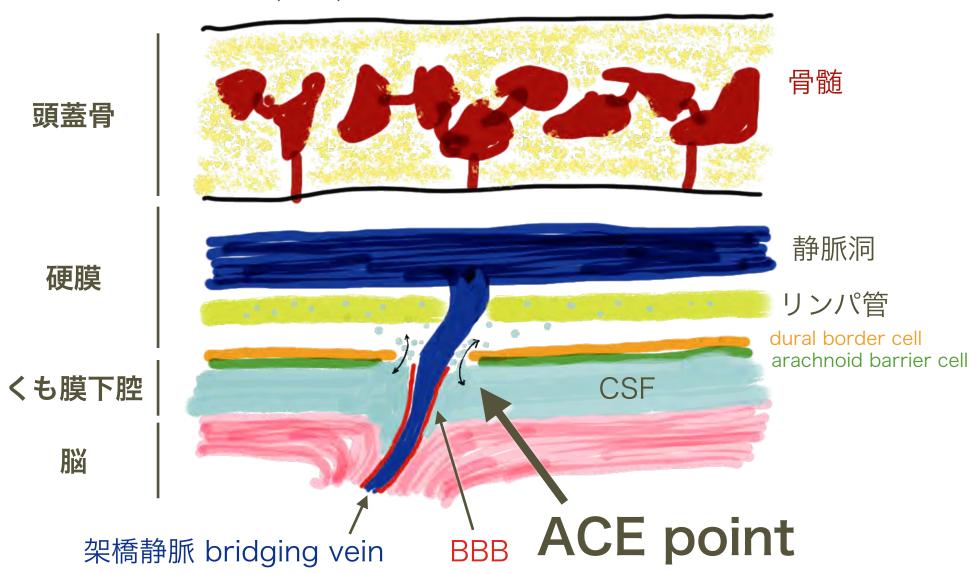


FIGURE 3–8 The lymphatic system. The major lymphatic vessels and collections of lymph nodes are illustrated. Antigens are captured from a site of infection, and the draining lymph node to which these antigens are transported and where the immune response is initiated.

Cellular and Molecular Immunology 6th ed.

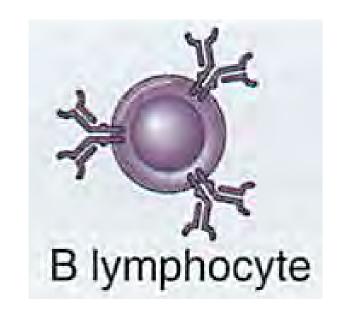
Arachnoid Cuff Exit

Smyth et al, "Identification of direct connections between the dura and the brain" Nature 627: 165 (2024) https://doi.org/10.1038/s41586-023-06993-7



Bone marrow の B と覚える

Bリンパ球

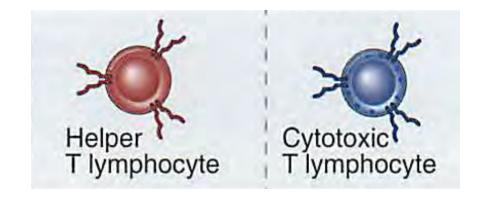


- 抗体を産生する(液性免疫)。
- ニワトリのファブリキウス嚢 the bursa of Fabricius に由来。哺乳類では骨髄 the bone marrow で作られる。
- ・サブセット
 - follicular, marginal zone, B-1

Thymus の T と覚える

Tリンパ球

- 細胞性免疫を担当。
- 胸腺 the thymus に由来。
- 抗原受容体に2種類。
 - αβ型



- helper, cytotoxic, regulatory, NKT
- γδ型

Bは骨髄で、Tは胸腺で成熟する

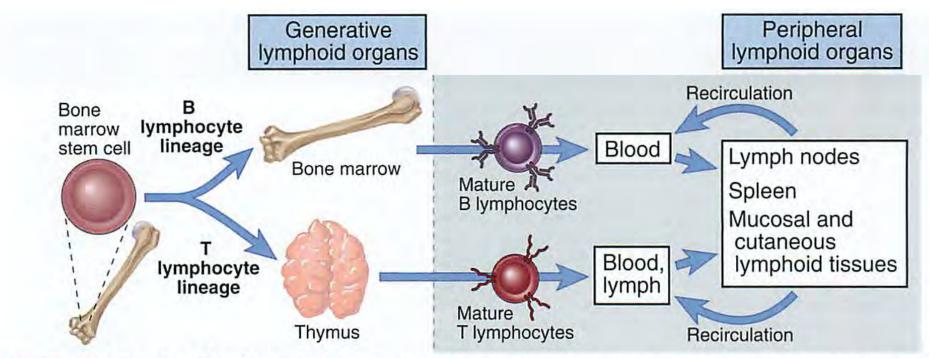


FIGURE 3–2 Maturation of lymphocytes. Mature lymphocytes develop from bone marrow stem cells in the generative lymphoid organs, and immune responses to foreign antigens occur in the peripheral lymphoid tissues.

2020年のノーベル化学賞

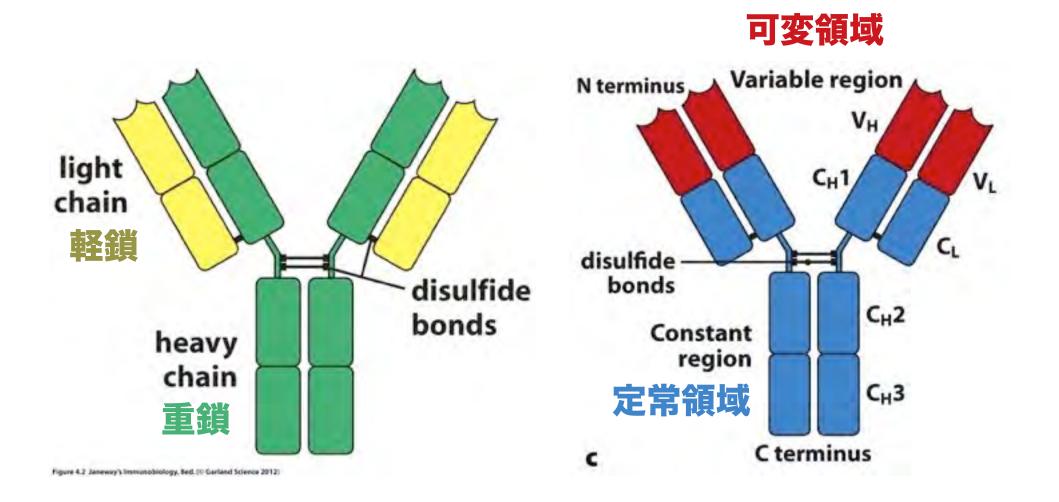
ゲノム編集

CRISPR/Cas9 が初めてではない!

抗原認識の多様化

- Bリンパ球
 - 抗体 antibody (Ab) = 免疫グロブリン immunoglobulin (Ig)
 - V(D)J 組換え
 - 体細胞突然変異
 - クラススイッチ組換え
- Tリンパ球
 - T細胞抗原受容体 T-cell receptor (TCR)
 - V(D)J 組換え

抗体

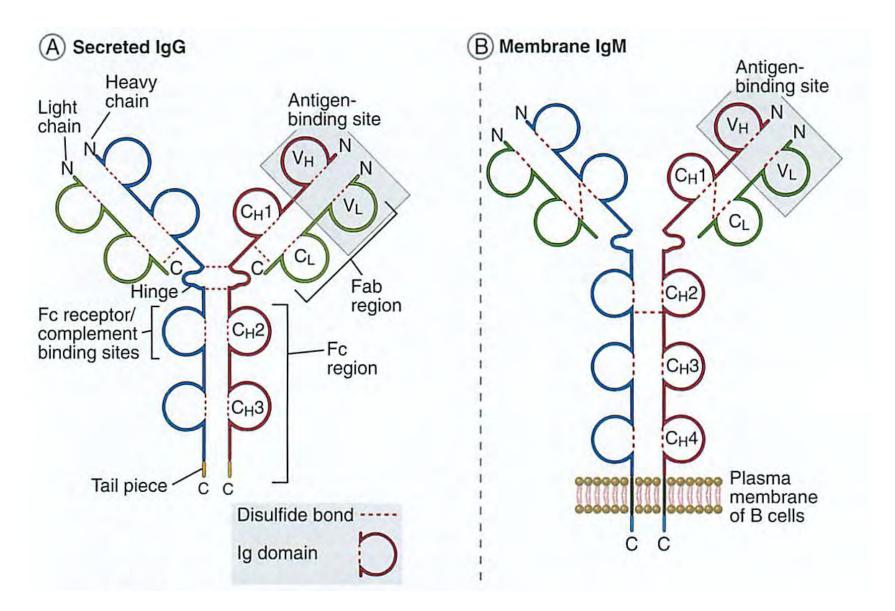


Janeway's Immunobiology, 8th ed.

抗体の機能

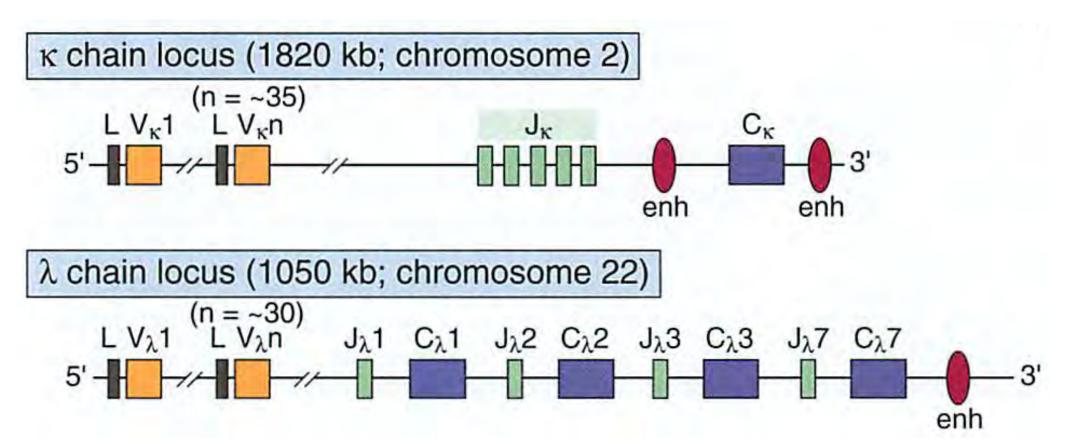
- 可変領域
 - 抗原を結合する。
- 定常領域
 - 抗原の処理方法を決める。
 - アイソタイプ isotype が存在する。
 - 重鎖: μ, δ, γ1, γ2, γ3, γ4, ε, α1, α2 (クラス、 サブクラスとも呼ばれる)
 - 軽鎖: κ(kappa), λ(lambda)

抗体には膜型と分泌型がある

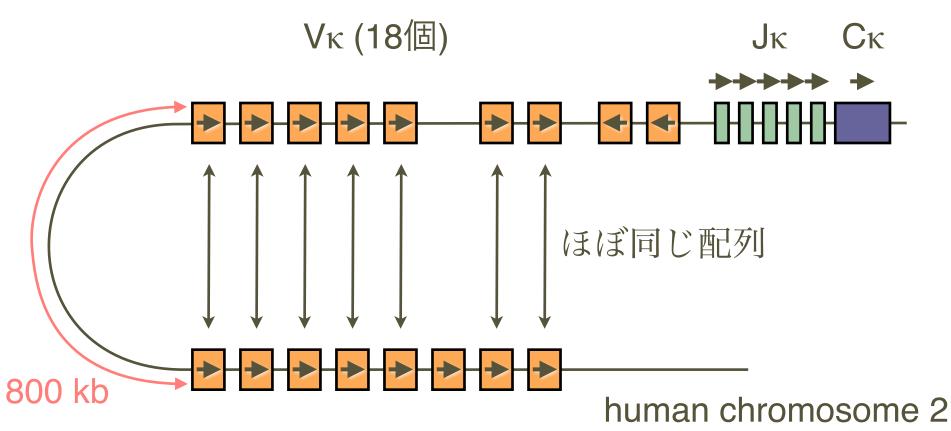


Cellular and Molecular Immunology 6th ed.

軽鎖 IgL 遺伝子



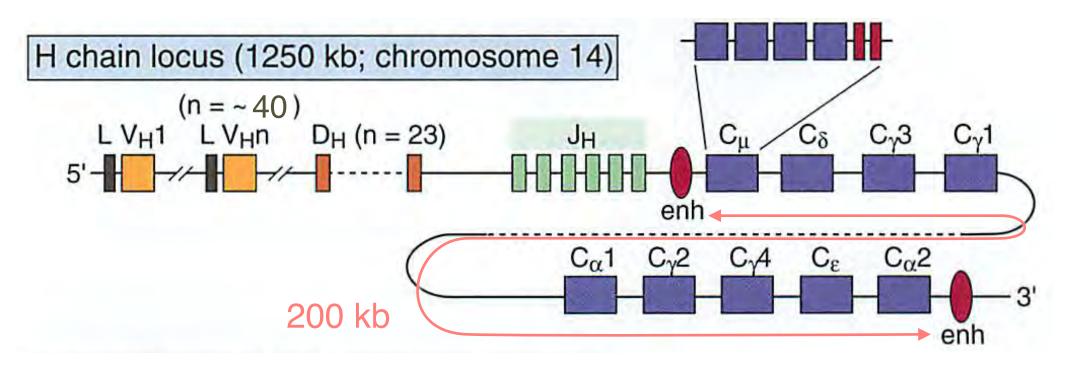
lg kappa 遺伝子座



Vκ (22個)

400 kb 遺伝子重複

重鎖 IgH 遺伝子



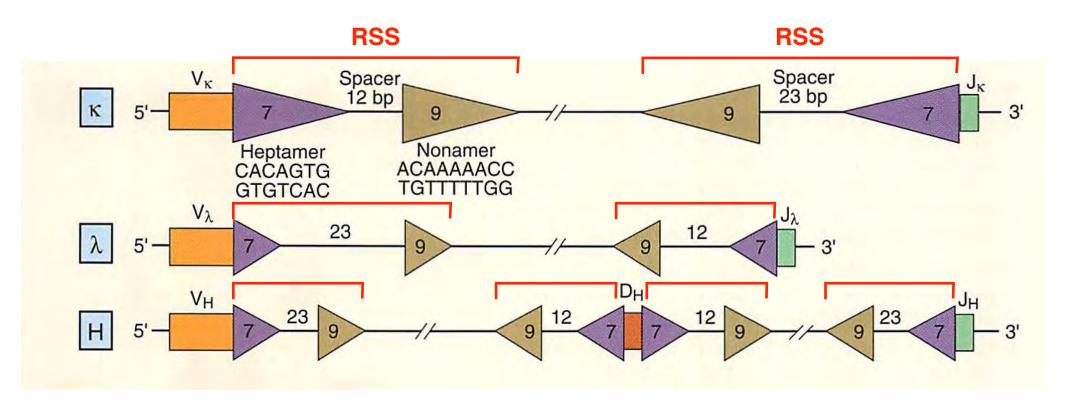
recombination-activating gene (RAG)

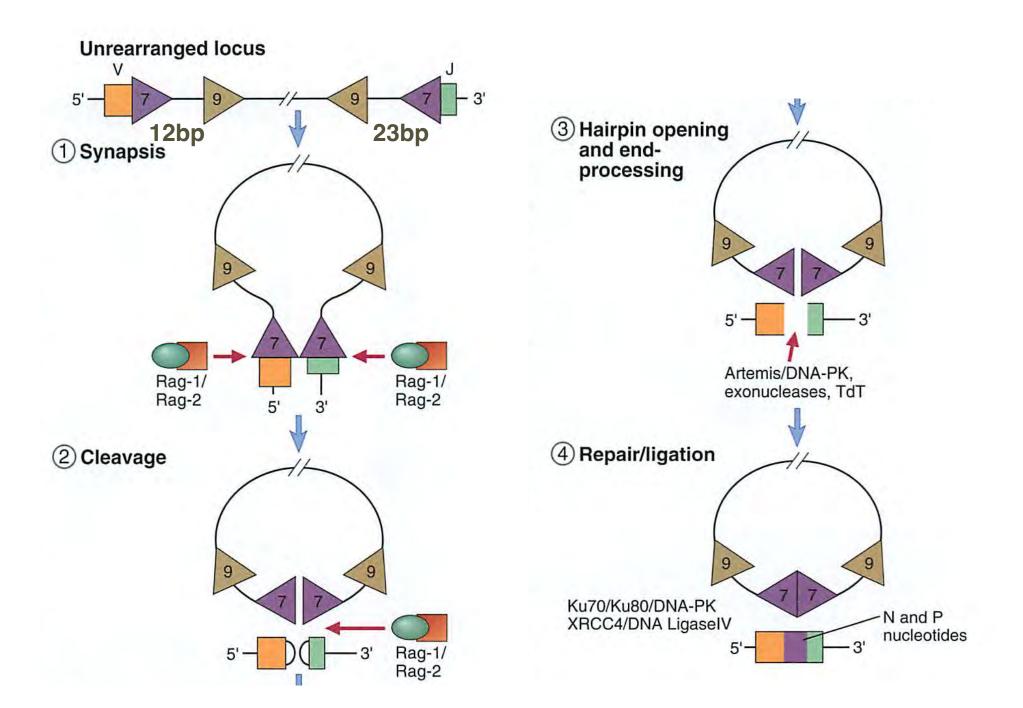
- V(D)J組換えを触媒する酵素。
- 特定の配列を認識、切断する。
- 再結合は ligase IV という別の酵素が行う。
- 軟骨魚類が生まれた時(4億年前)、ゲノムに 侵入したトランスポゾン(ウイルス)に由来する。
- RAG-1, RAG-2 2つのタンパクから成る。

recombination signal sequence

- RAGが認識する配列。その境界で切断される。
- 7塩基と 9塩基(特定の配列)、その間のspacer (長さは12か23塩基)からなる。
- 組換えは spacer が 1 2 のものと 2 3 のものの間で起こる (12/23 rule)。

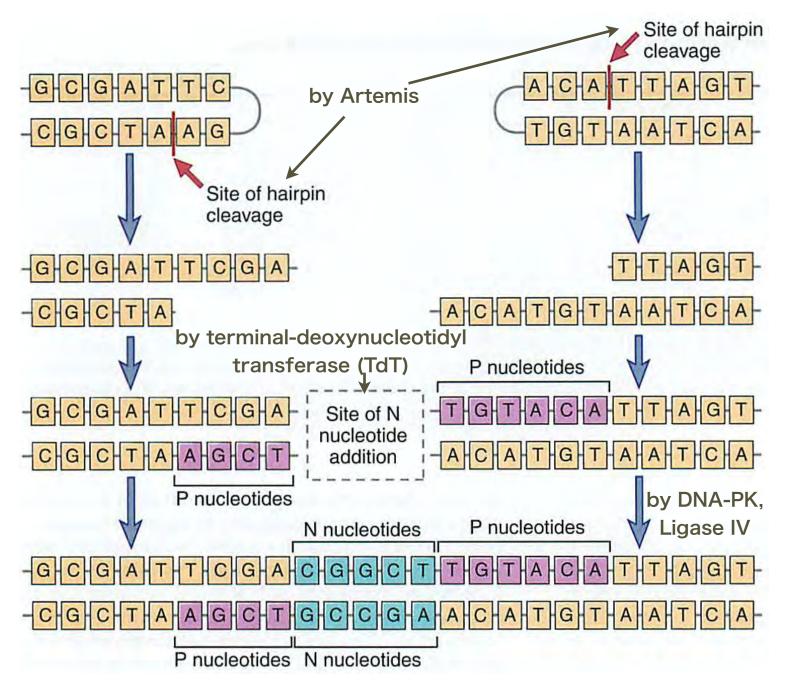
recombination signal sequence (RSS)





Cellular and Molecular Immunology 6th ed.

Junctional diversity



可変領域(抗原認識)の多様化

Variable Diversity Joining gene segment

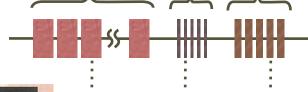
Variable Variable region gene Constant region gene

可変領域

/ D J

定常領域

40個 23個 6個





Susumu Tonegawa (1939~) 1987 年度ノーベル生理学・医学賞受賞 $40 \times 23 \times 6 = 5,520$

利根川 進 1987年ノーベル賞

組換えのつなぎ目をも多様化に利用 するという巧妙さ

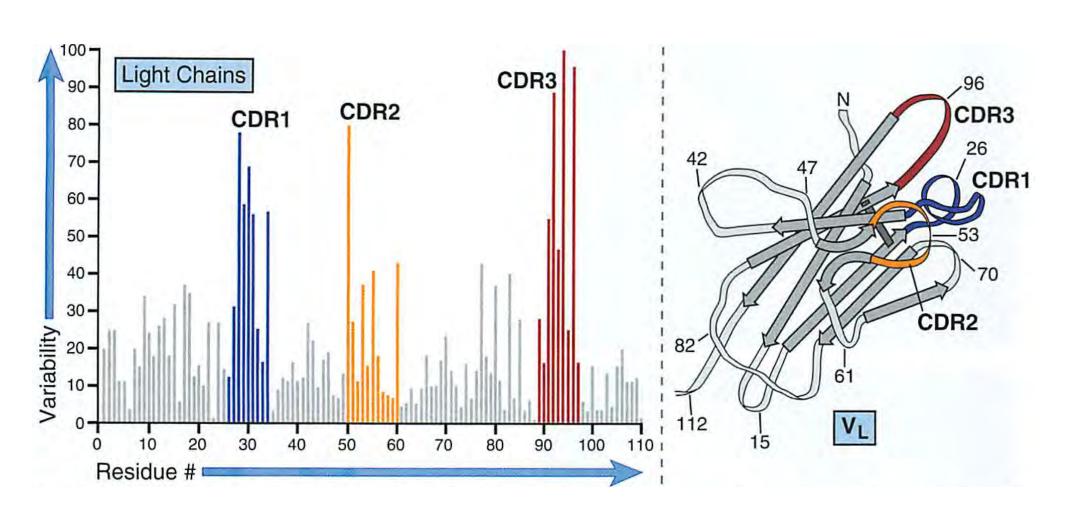
完成した可変領域遺伝子



「つなぎめ」が 3つ目のループに当たる



体細胞突然変異



complementarity-determining region (CDR)

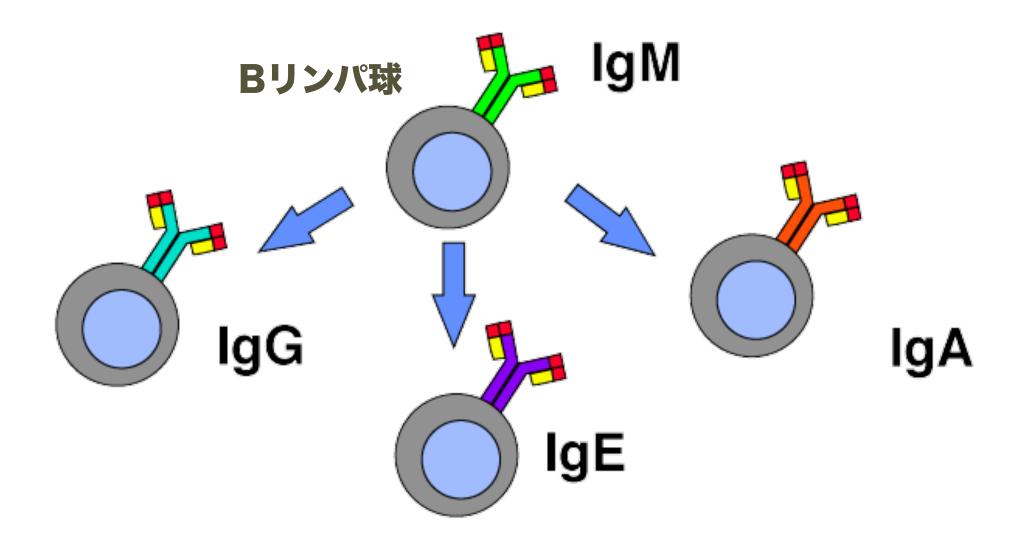
Cellular and Molecular Immunology 6th ed.

activation-induced cytidine deaminase (AID)

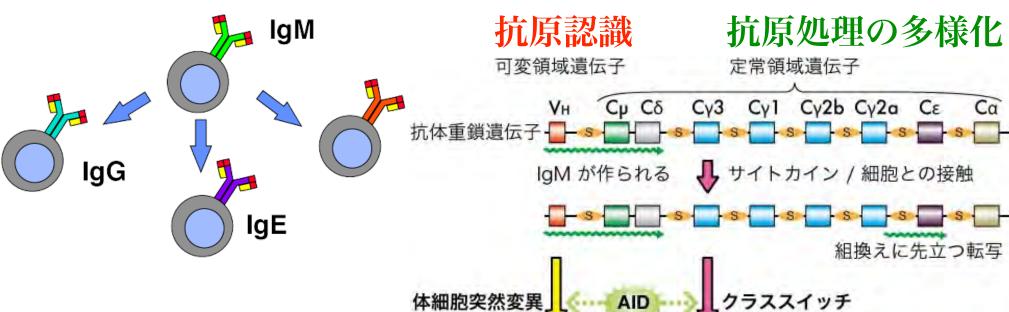
- 体細胞突然変異とクラススイッチ組換えに必須の酵素。
- DNAのシトシンを脱アミノ化して、ウラシルを生成する。DNAのウラシルはDNA修復機構によりシトシンに戻されようとするが、一部、修復されずにさまざまな変異を生む起点となる。
- apolipoprotein B-editing complex (APOBEC)ファミリーの一員。
- 発がんの原因にもなる。
- 軟骨魚類以降のゲノムに存在する。

抗体のクラススイッチ

抗原処理の多様化



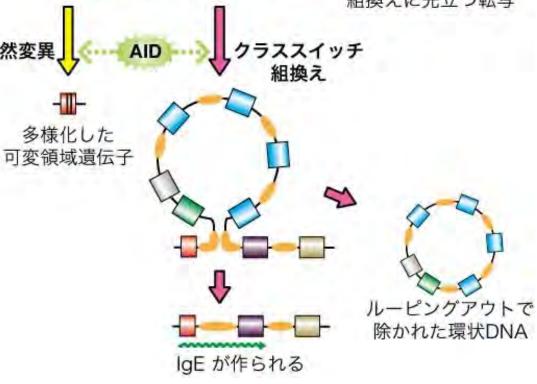
抗体のクラススイッチ



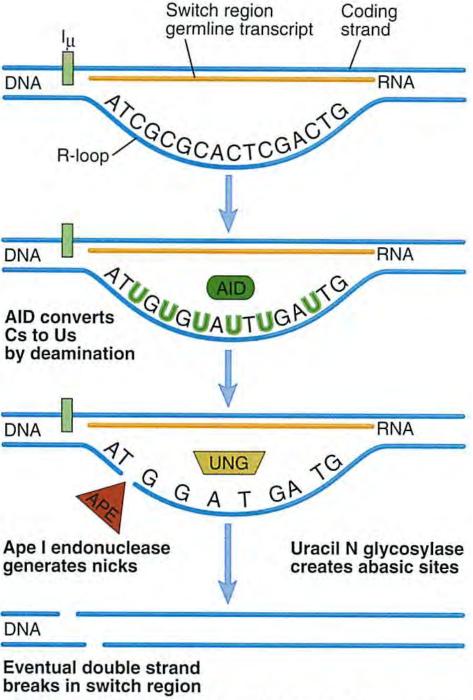
多様化した



本庶

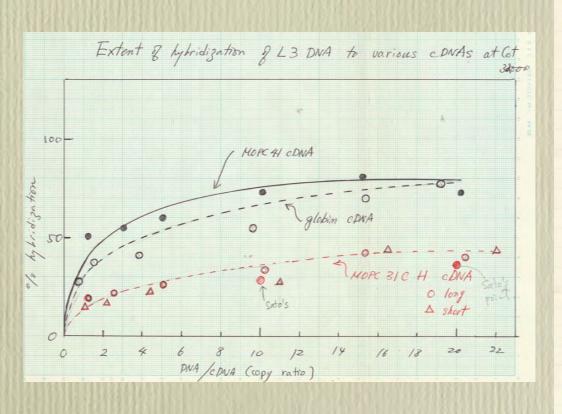


AIDがDNA二重鎖切断を誘発する

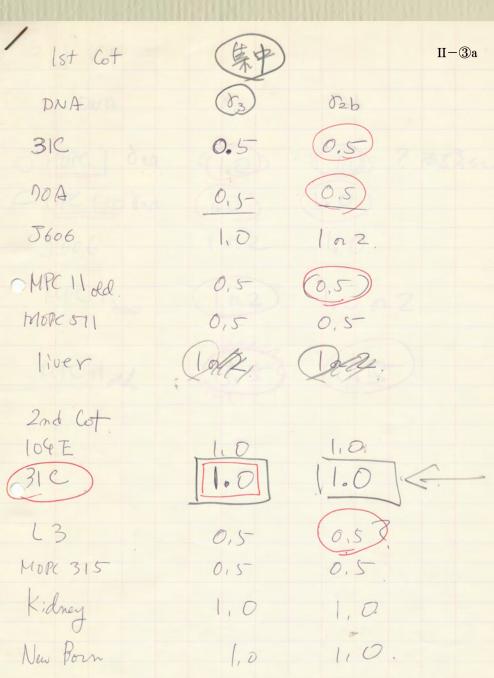


Cellular and Molecular Immunology 6th ed.

クラススイッチの遺伝子欠失モデル



from notebook by Honjo
in 1974
"before cloning" (BC) era



クラススイッチの遺伝子欠失モデル

relative copy number

	γ1	γ2a	γ2b	γ3
IgG1 producer	1	1	1	0.5
IgG2a producer	0.5	1	0.5	0.5
IgG2b producer	0.5	1	1	0.5
IgG3 producer	1	1	1	1
IgM producer	1	1	1	1
IgA producer	0.5	0.5	0.5	0.5

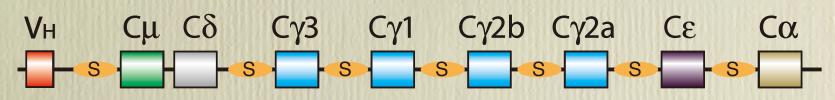
in 1974

クラススイッチの遺伝子欠失モデル

relative copy number

	γ3	γ1	γ2b	γ2a
IgM producer	1	1	1	1
IgG3 producer	1	1	1	1
IgG1 producer	0.5	1	1	1
IgG2b producer	0.5	0.5	1	1
IgG2a producer	0.5	0.5	0.5	1
IgA producer	0.5	0.5	0.5	0.5

switch region

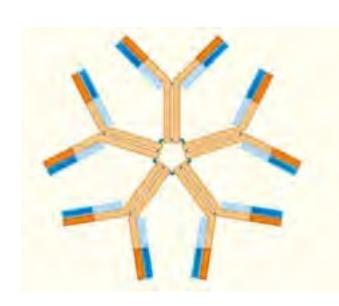


in 1974

Honjo & Kataoka in PNAS 75: 2140 (1978)

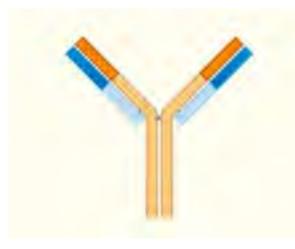
Shimizu & Honjo in Cell 36: 801 (1984)

抗体のクラス



IgM

ウイルスや細菌に感染したとき、最初につくられる 抗体。全体の約10%を占める。IgMは5つの抗体が結 合し合った5量体として存在し、抗原に結合しやすく なっている。IgMがつくられた後にIgGがつくられる。

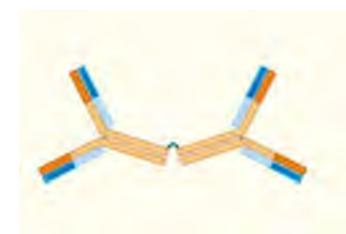


lgG

血液中の免疫グロブリン全体の約75%を占め、もっとも多く含まれる。ウイルスや細菌に感染すると、排除するよう攻撃。感染初期にはIgMが攻撃するが、その後、IgMからIgGに産生が変換されて攻撃が続く。

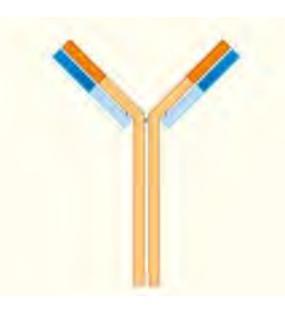
免疫学の基本がわかる事典(鈴木隆二著)

抗体のクラス



IgA

免疫グロブリン全体の約15%を占める。消化管や気道などの粘膜や唾液中に存在し、ウイルスや細菌の感染を予防するように働く。分泌型IgAとして初乳にも含まれる。血液中のIgAは通常の1量体だが、粘膜や初乳中に存在するIgAは2量体である。

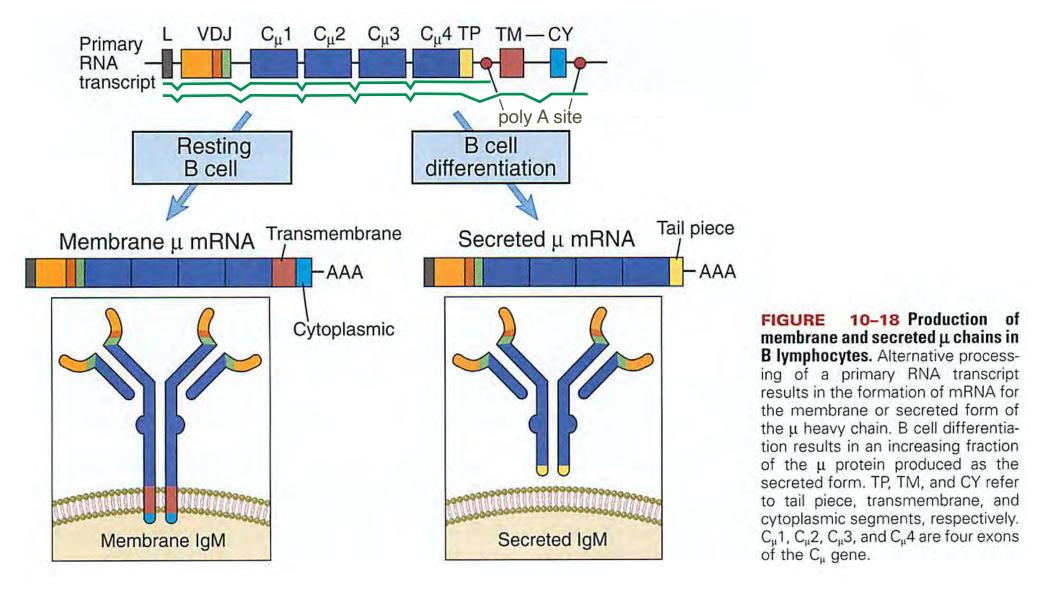


IgE

全体の0.001%以下という、もっとも含まれる量が少ない抗体。アレルギー抗体とも呼ばれる。花粉やダニ、食物の一部などの抗原に結合し、喘息やかゆみなどのアレルギー反応を引き起こす。もともとは寄生虫などに対する抗体であると考えられている。

免疫学の基本がわかる事典(鈴木隆二著)

選択的スプライシングによる分泌型/膜型の転換

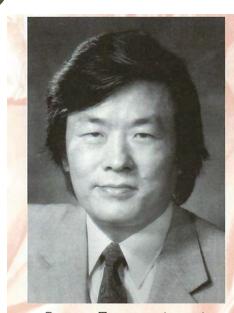


Cellular and Molecular Immunology 6th ed.

抗体の多様化まとめ

- V遺伝子の組換えは RAGタンパク
- V遺伝子の突然変異は AID タンパク
 - 無限種類の抗原認識を可能に
- C遺伝子のクラススイッチも AID タンパク
 - 抗体機能は複数種類のモジュールを付け替 えることで変換できる

本庶 佑 (1942~) 2018年度ノーベル生理学・医学賞受賞



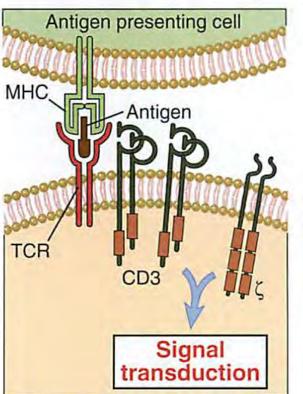
Susumu Tonegawa (1939~) 1987 年度ノーベル生理学・医学賞受賞 ©The Nobel Foundation



T細胞抗原受容体

- お皿(MHC)の上に抗原を載せて認識する。
- 体細胞突然変異、クラススイッチはない!
- 分泌型もない!

T cell receptor (TCR)



Antibody (Immunoglobulin)

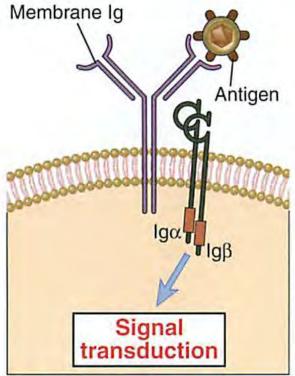


FIGURE 7–2 Antigen recognition and signaling functions of lymphocyte antigen receptors. The antigen recognition and signaling functions of antigen receptors are mediated by distinct proteins of the antigen receptor complex. When TCR or Ig molecules recognize antigens, signals are delivered to the lymphocytes by proteins associated with the antigen receptors. The antigen receptors and attached signaling proteins form the T and B cell receptor complexes. Note that single antigen receptors are shown recognizing antigens, but signaling requires the cross-linking of two or more receptors by binding to adjacent antigen molecules.

Cellular and Molecular Immunology 6th ed.

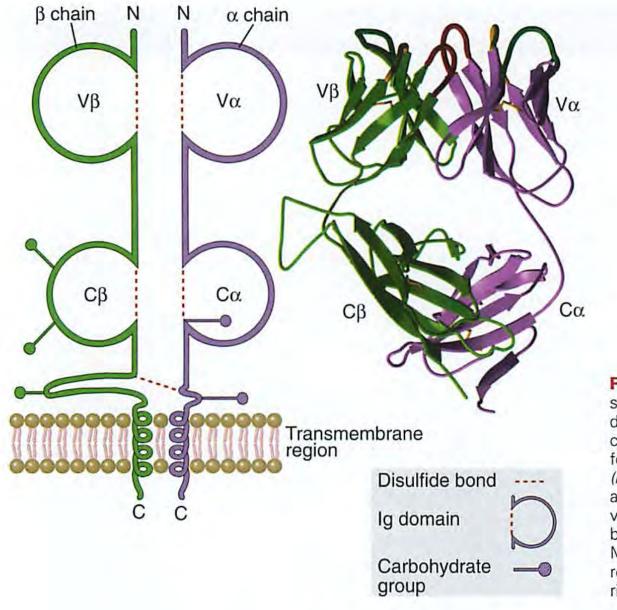
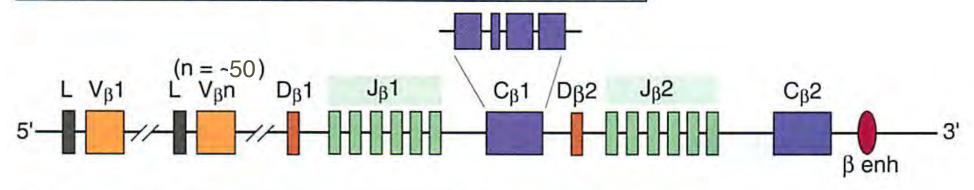
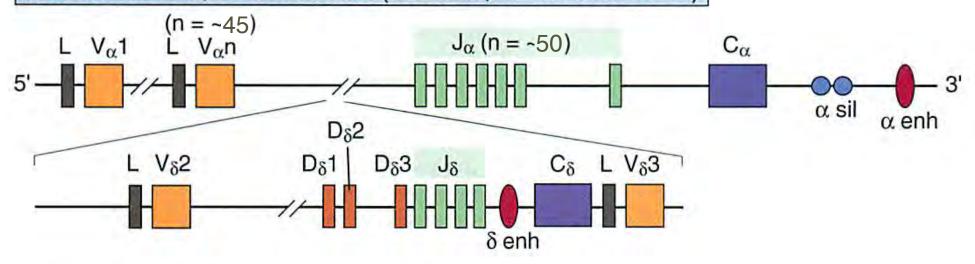


FIGURE 7-3 Structure of the T cell receptor. The schematic diagram of the $\alpha\beta$ TCR (left) shows the domains of a typical TCR specific for a peptide-MHC complex. The antigen-binding portion of the TCR is formed by the V_{α} and V_{β} domains. The ribbon diagram (right) shows the structure of the extracellular portion of a TCR as revealed by x-ray crystallography. The hypervariable segment loops that form the peptide-MHC binding site are at the top. (Adapted from Bjorkman PJ. MHC restriction in three dimensions: a view of T cell receptor/ligand interactions. Cell 89:167–170, 1997. Copyright Cell Press.)

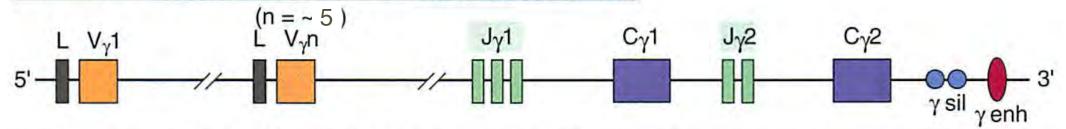
Human TCR β chain locus (620 kb; chromosome 7)



Human TCR α , δ chain locus (1000 kb; chromosome 14)



Human TCR γ chain locus (200 kb; chromosome 7)



Cellular and Molecular Immunology 6th ed.

対立アレル排除

allele = 遺伝子座

- IgH, IgL ともに父方母方2アレルのうち、1 アレルしか発現しない。BおよびT細胞はただ 1種類の抗原受容体しか発現しない。
- ・ 細胞の選択が、即ち、抗原受容体の選択に直結 する。
- その機構は複雑で、かなり解明が進んでいるが、謎も残されている。

免疫寬容 immune tolerance

- 自己に反応しないように、自己を認識するリンパ球 を抑制する仕組み。
- Tリンパ球の免疫寛容が大切。
- 2種類ある。
 - 中枢性 central
 - 自己反応性Tリンパ球を生まれた直後に殺す。
 - 末梢性 peripheral
 - 自己反応性Tリンパ球を抑制する。

正の選択と負の選択

- 胸腺で自己の MHC を程よく認識できるもの が選ばれる。 (正の選択)
- 自己の MHC と強く反応するものは除去される。(負の選択)

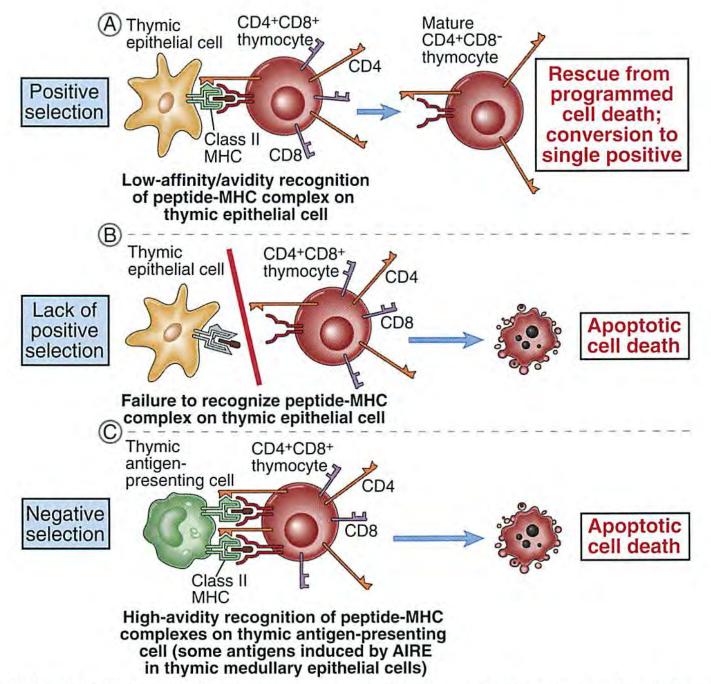


FIGURE 8–24 Selection processes in the thymus. A. Positive selection. If the thymocyte TCR engages in a low-affinity interaction with a self MHC molecule on a thymic epithelial cell, it is rescued from programmed cell death and continues to mature. B. Lack of positive selection. If the thymocyte TCR does not engage in any interactions with peptide-MHC molecule complexes on thymic epithelial cells, it will die by a default pathway of programmed cell death. C. Negative selection. If the thymocyte TCR binds peptide-MHC complexes on a thymic antigen-presenting cell with high affinity or avidity, it is induced to undergo apoptotic cell death.

リンパ球の活性化

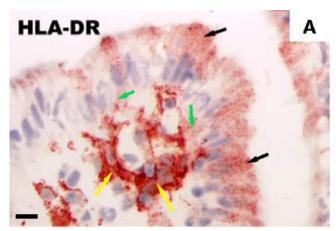
- Tリンパ球の抗原認識/活性化は抗原提示細胞を要する。
- Bリンパ球の抗原認識には抗原提示細胞は不要。
 - Bリンパ球の活性化にはTリンパ球のヘルプが必要 (ヘルパーT細胞)。

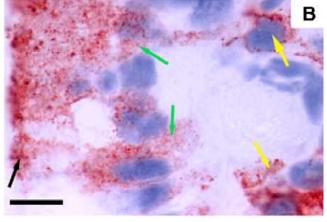
抗原提示細胞

- 微生物/抗原を貪食し、消化する。その断片を class II MHCというお皿に載せて T 細胞に提 示する。
 - 樹状細胞
 - マクロファージ
 - Bリンパ球
 - 上皮細胞の一部

小腸絨毛先端の上皮は MHC class II を発現している

• CD4 陽性の T 細胞 (ヘルパー T 細胞あるいは 制御性 T 細胞) に抗原提示している。





上皮頂端側

上皮側底側

樹状細胞

Lin et al., "Human small intestinal epithelial cells constitutively express the key elements for antigen processing and the production of exosomes", Blood Cells, Molecules, and Diseases 35 (2005) 122 – 128 doi: 10.1016/j.bcmd.2005.05.011

総説: doi: 10.3389/fimmu.2018.02144

普通の細胞の抗原提示

- 赤血球を除くすべての細胞は細胞質(自分自身またはウイルス由来)のタンパクの断片を class I MHC にのせて T 細胞に提示する。
- 免疫寛容機構の働きで T 細胞は自分の細胞の抗 原には反応しない。
- T細胞はウイルスに感染した細胞を認識し殺す。
 - ある種のウイルス/腫瘍細胞はclass I MHC が表面にでないようにできる。T 細胞はこれ を認識できない。その場合は……

主要組織適合性複合体 (MHC)

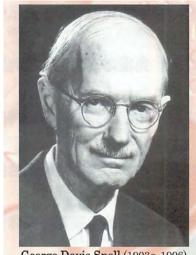
- major histocompatibility complex の翻訳。主要組 織適合性抗原とも。
- ヒトでは human leukocyte antigen (HLA)とも呼ばれる。
- 2種類ある。
 - class I: キラーT細胞により認識される。CD8 を補助受容体とする。
 - class II: ヘルパーT細胞により認識される。CD4 を 補助受容体とする。

MHC関連のノーベル賞

マウスclass I MHCの発見

マウスclass II MHCの発見

HLAの発見



George Davis Snell (1903~1996) 1980 年度ノーベル生理学・医学賞受賞 1980 年度ノーベル生理学・医学賞受賞 ©The Nobel Foundation



Baruj Benacerraf (1920~)





Peter C. Doherty (1940~) 1996 年度ノーベル生理学・医学賞受賞

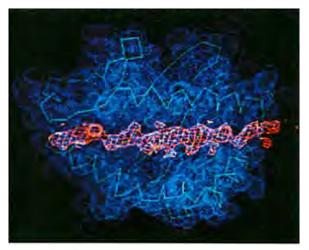


1996 年度ノーベル生理学・医学賞受賞

キラーT細胞の 抗原認識機構を解明



MHCの構造



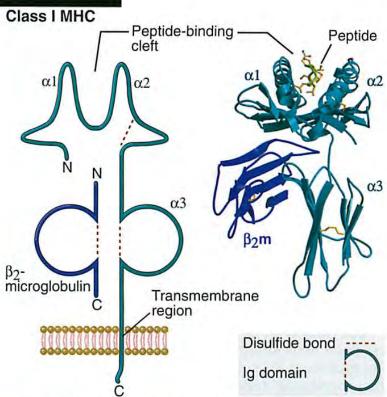


FIGURE 5–4 Structure of a class I MHC molecule. The schematic diagram (*left*) illustrates the different regions of the MHC molecule (not drawn to scale). Class I molecules are composed of a polymorphic α chain noncovalently attached to the nonpolymorphic β_2 -microglobulin (β_2 m). The α chain is glycosylated; carbohydrate residues are not shown. The ribbon diagram (*right*) shows the structure of the extracellular portion of the HLA-B27 molecule with a bound peptide, resolved by x-ray crystallography. (Courtesy of Dr. P. Bjorkman, California Institute of Technology, Pasadena, California.)

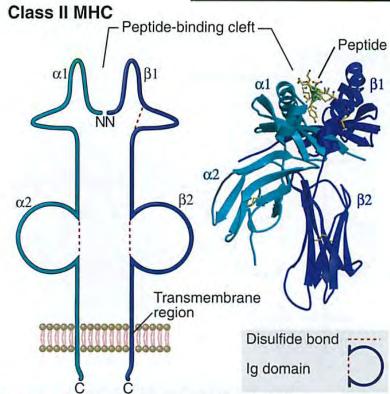


FIGURE 5–6 Structure of a class II MHC molecule. The schematic diagram (*left*) illustrates the different regions of the MHC molecule (not drawn to scale). Class II molecules are composed of a polymorphic α chain noncovalently attached to a polymorphic β chain. Both chains are glycosylated; carbohydrate residues are not shown. The ribbon diagram (*right*) shows the structure of the extracellular portion of the HLA-DR1 molecule with a bound peptide, resolved by x-ray crystallography. (Courtesy of Dr. P. Bjorkman, California Institute of Technology, Pasadena, California)

tute of Technology, Pasadena, California.)
Cellular and Molecular Immunology 6th ed.

MHCの多様性

• HLA class I: 3種類 (A, B, C)

4 mb

• HLA class II: 3種類 (DP, DQ, DR)

• 多型によって頻度に違いがあり、日本人 上位10アレルの合計頻度は A: 97%, B 73%, C 95%, DPA1 100%等。http://

hla.or.jp/med/frequency_search/ja/allele/

	多型の種類
Α	5,229
В	6,358
С	4,934

	多型の種類(α : β)
DP	397 : 1670
DQ	472 : 1736
DR	19 : 3328

MHC Complex 从HLA-A —▶↓ 21.32p 21.31p 21.2p centromere HLA-DR human chromosome 6

HLA

https://www.ebi.ac.uk/ipd/imgt/hla/about/statistics/

なぜMHCは多様なのか?

- パンデミックによる絶滅の回避
- 伝搬性腫瘍の回避
 - タスマニアデビル 顔面腫瘍



https://ja.wikipedia.org/wiki/タスマニアデビル

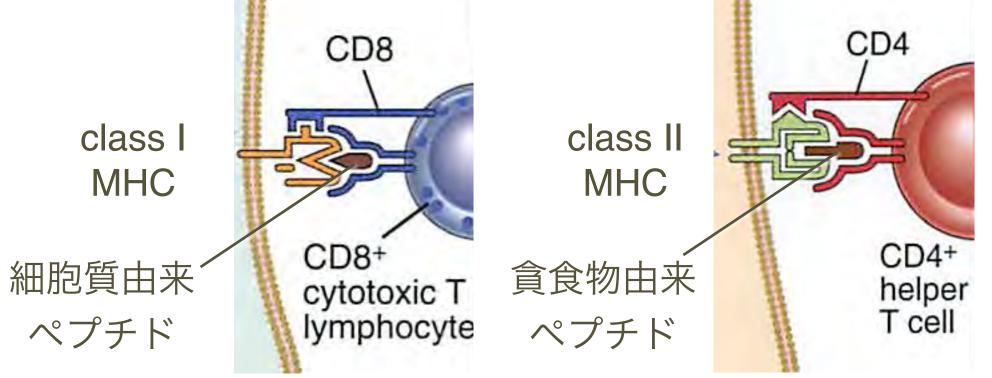
・イヌ 可移植性性器腫瘍 1万1000歳!

CD抗原

- CD (cluster of differentiation)
- 細胞の分化段階を区別するための表面マーカータンパク。
- 最低3つのモノクローナル抗体によってCD番号が与えられる。
- 現在 CD 1~371 (http://www.hcdm.org)

CD4とCD8

- 細胞傷害性 T 細胞 CD8 陽性
- ヘルパー T 細胞 CD4 陽性



Cellular and Molecular Immunology 6th ed.

補助刺激受容体

- 自然免疫からの入力(シグナル2)が無ければ、適応免疫は発動しない。
 - シグナル1:抗原受容体からのシグナル
 - シグナル2:自然免疫反応により誘導されるリガンドを認識する受容体(補助刺激受容体)からのシグナル

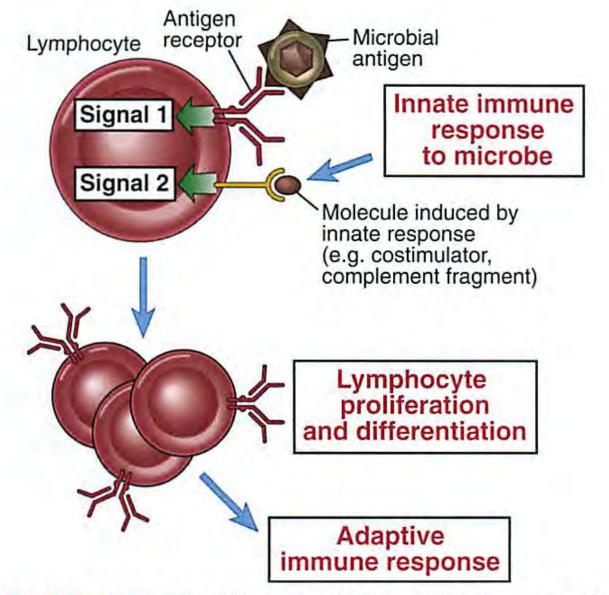
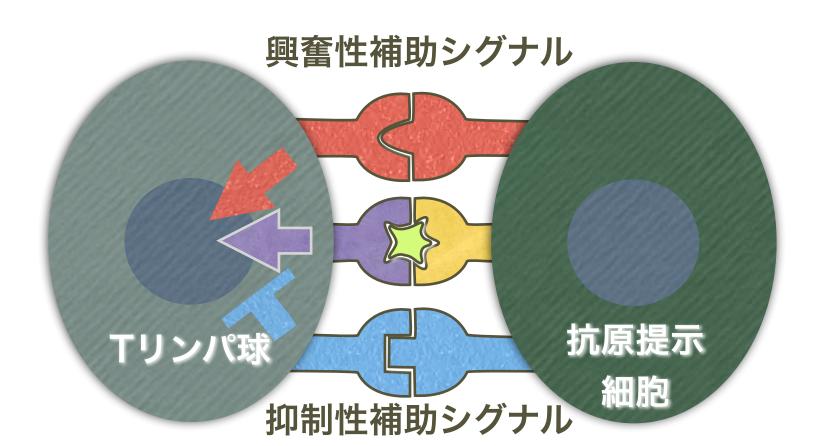


FIGURE 2–13 Stimulation of adaptive immunity by innate immune responses. Antigen recognition by lymphocytes provides signal 1 for the activation of the lymphocytes, and molecules induced on host cells during innate immune responses to microbes provide signal 2. In this illustration, the lymphocytes are B cells, but the same principles apply to T lymphocytes. The nature of second signals differs for B and T cells and is described in later chapters.

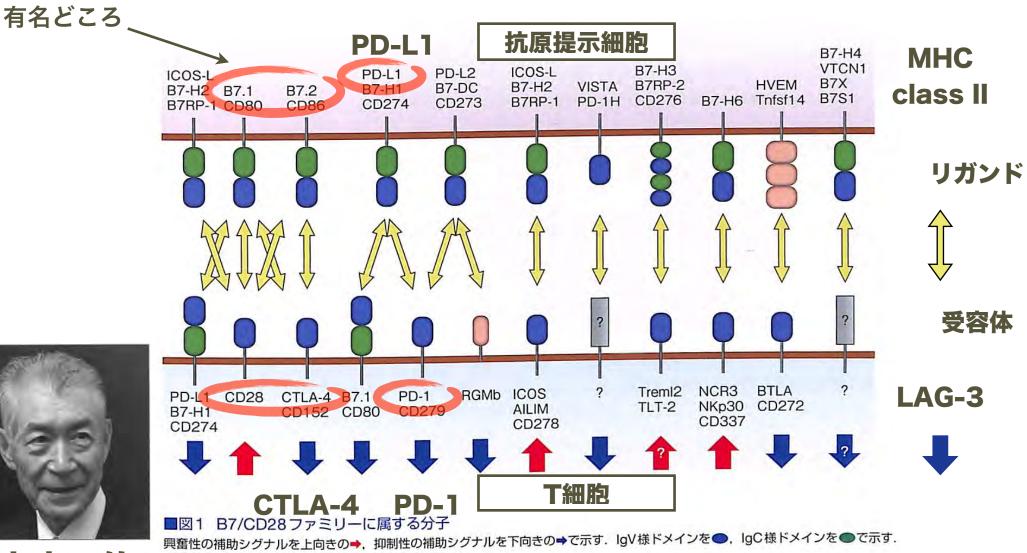
Cellular and Molecular Immunology 6th ed.

抑制性の補助シグナル

- 自己寛容(自己免疫の抑止)=末梢性免疫寛容
- 感染時の炎症による組織障害の防止



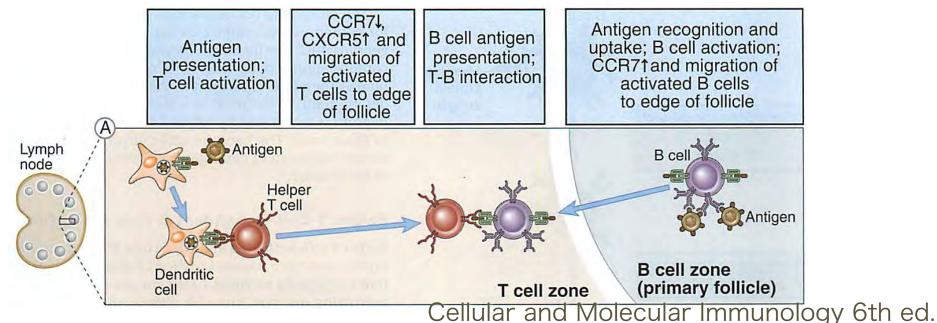
補助刺激受容体とリガンド



本庶 佑

胚中心反応 geminal center reaction

- 抗原を貪食した樹状細胞は感染部位からリンパ節へ移動し、ヘルパーT細胞へ抗原提示する。
- 血液中の病原体は脾臓でマクロファージにより貪食され、ヘルパーT細胞へ抗原提示される。
- ヘルパーT細胞はBリンパ球と相互作用し、これを刺激する。
 B細胞は分裂を開始し、AIDを発現する。抗体可変領域の体細胞突然変異、定常領域のクラススイッチ組換えが起こる。



T-B 相互作用

- B 細胞はB細胞受容体 (B-cell receptor = 膜型抗体) からの刺激 (signal 1)と同時に、T 細胞から補助シグナル (singal 2) を受けて初めて活性化される。
- その際、B 細胞は貪食した抗原を提示する。cognate interaction

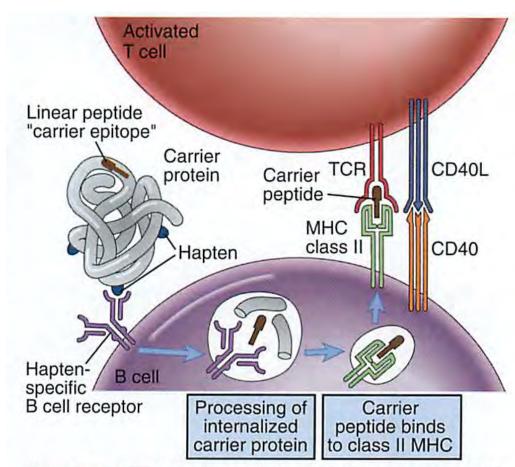
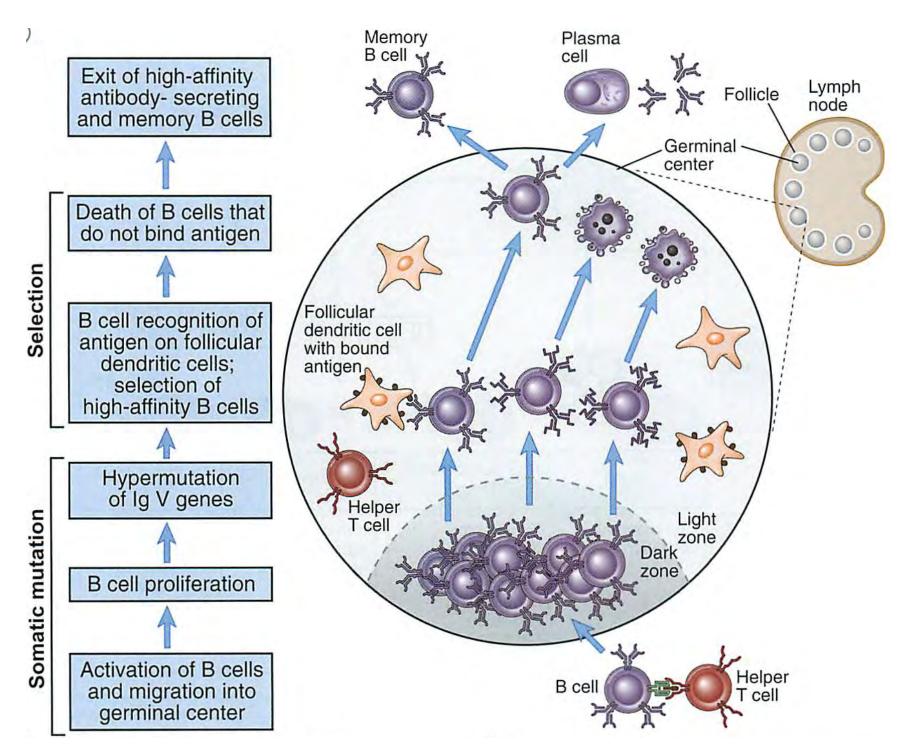


FIGURE 10-10 T-B collaboration and the hapten-carrier effect.

A monovalent protein conjugated to a hapten is internalized by a hapten-specific B cell that processes the antigen and presents the linear peptide or "carrier determinant" on class II MHC molecules to an activated helper T cell, which then triggers the B cell via a CD40L-CD40 interaction.

親和性成熟 affinity maturation

- AIDによる体細胞突然変異により多様化した抗体の中から、抗原により強く結合できるものを選択する機構。
- 抗原は濾胞性樹状細胞 follicular dendritic cell (FDC) によって捕捉され、貪食されずにそのままの形で B 細胞に提示する。
- B細胞はFDC上の抗原を競い合う。抗原に結合できない B細胞はアポトーシスを起こす。
- 胚中心は抗体が進化する場所である。



Cellular and Molecular Immunology 6th ed.



腸間膜リンパ節



AID遺伝子座にRFPを挿入したノックインマウス

形質細胞とメモリーB細胞

- 胚中心反応を経てクラススイッチした高親和性 抗体は以下のいずれかの運命をたどる。
 - 形質細胞 plasma cell
 - 大量の抗体を分泌
 - 骨髄で長期生存するものも
 - メモリーB細胞

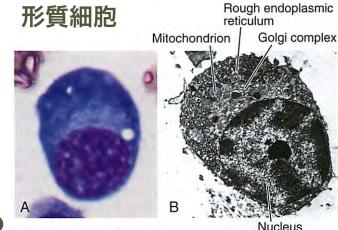


FIGURE 3-5 Morphology of plasma cells. A. Light micrograph of a plasma cell in tissue. B. Electron micrograph of a plasma cell. (Courtesy of Dr. Noel Weidner, Department of Pathology, University of California, San Diego, California.)

核の偏在 車軸様のクロマチン

• 次回の感染に備え、休止状態に入る

ヘルパー T細胞

- CD4陽性のヘルパーT細胞はサイトカインの影響で3種類のサブセットに分化する
 - T_H1
 - IFN-γ(NK細胞)が作用して誘導される。
 - 細胞性免疫(マクロファージ)を増強する。
 - IFN-γを大量に分泌。
 - T_H2
 - IL-4 (肥満細胞)が作用して誘導される。
 - 液性免疫 (B細胞) を増強する。
 - IL-4 を大量に分泌。
 - T_H17
 - 細菌・真菌感染に対応。IL-17を分泌

細胞傷害性 T細胞の必殺技

- CD8陽性のキラー T 細胞は標的細胞を殺す。
 - granzyme /perforin タンパクを送り込む
 - Fas
 - NK細胞も同じやり方

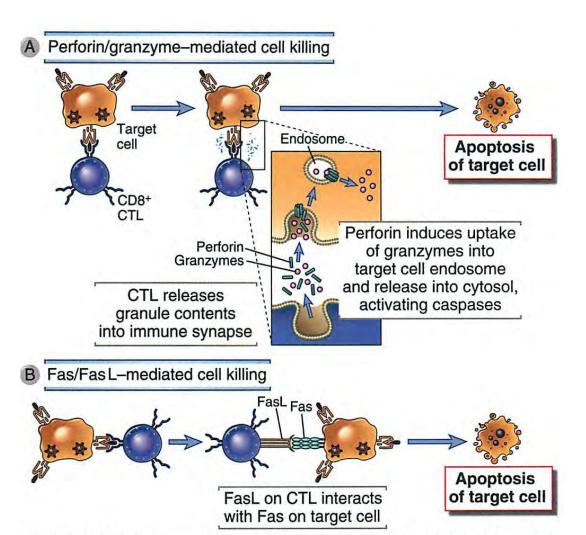


FIGURE 11-6 Mechanisms of CTL-mediated killing of target cells. CTLs kill target cells by two main mechanisms. **A,** Complexes of perforin and granzymes are released from the CTL by granule exocytosis and enter target cells. The granzymes are delivered into the cytoplasm of the target cells by a perforin-dependent mechanism, and they induce apoptosis. **B,** FasL is expressed on activated CTLs, engages Fas on the surface of target cells, and induces apoptosis.

Cellular and Molecular Immunology 8th ed.

制御性T細胞

- 他のT細胞の活性化 を抗原依存的に抑制 する細胞で、中枢性 免疫寛容の一翼を担 う。
- 補助刺激のリガンド (B7)を奪うことに より補助刺激を入ら なくさせる。

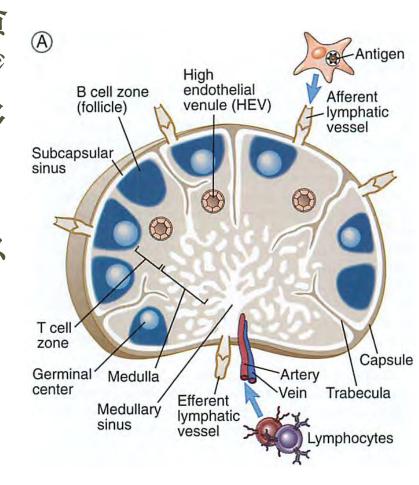
A Cell intrinsic B Blocking and inhibitory signaling removing B7 on APC **B7** CTLA-4 T cell. APC **CD28** T cell **CD28** Signal block⇒ -CTLA-4 inhibition of T cell activation Regulatory T cell Reduced B7 costimulation ⇒ inhibition of T cell activation

FIGURE 15-6 Mechanisms of action of CTLA-4. A, Engagement of CTLA-4 on a T cell may deliver inhibitory signals that terminate further activation of that cell (cell-intrinsic function of CTLA-4). **B,** CTLA-4 on regulatory or responding T cells binds to B7 molecules on APCs or removes these molecules from the surface of the APCs, making the B7 costimulators unavailable to CD28 and blocking T cell activation. CTLA-4-mediated inhibition by regulatory T cells is a cell-extrinsic action of this inhibitory receptor (since the responding T cells are suppressed by another cell).

Cellular and Molecular Immunology 8th ed.

細菌感染の経過

- 皮膚外傷>細菌侵入>樹状細胞による貪食>好中球による貪食>マクロファージによる貪食>樹状細胞のリンパ節への移動> TH細胞活性化
 - >B細胞活性化>胚中心反応>クラススイッチ・高親和性抗体>中和・オプソニン作用・補体による溶菌>
 - >キラーT細胞活性化>perforin/ granzymeを用いて感染細胞の破壊



ウイルス感染の経過

- ウイルス侵入>パターン認識受容体
 - >感染細胞の抗原提示>キラーT細胞活性化
 - >感染細胞の破壊>樹状細胞・マクロ
 - ファージによる貪食>以下細菌感染同様
 - class I MHC を出さなくなった細胞は NK 細胞が殺す。

Take Home Message

- 適応免疫はリンパ球を主体とする生体防御システム。
- T細胞は胸腺で「教育」され、MHC上のペプチド抗原を認識するが、自己の抗原には反応しない。
- B 細胞は骨髄で成熟し、リンパ節で抗原刺激とヘルパー T 細胞の作用を受けて、高親和性抗体を生む胚中心を形成する。一部は形質細胞に分化し、抗体産生に特化する。
- T, B ともにメモリー細胞となり、長期間2度目の感染に備える。
- 免疫寛容には中枢性と末梢性のものがある。